



31



30

30 川端玉章

《青緑山水図》 一幅

明治三十九年（一九〇六）
絹本着色
本紙一六〇・七×一〇〇・三

31 川端玉章

《青緑山水図》 一幅

明治三十九年（一九〇六）
絹本着色
本紙一六五・〇×一〇一・七

作品番号30は、梅の花咲く初春の情景となっており、その香り漂う断崖の上に立てられた家屋は、人里離れて暮らす高潔な隠士存在を暗示している。作品番号31は、初夏の頃であるうか、山間からは轟々と滝が流れ落ち、樹木には青々と葉が茂っている。画題を同じくするこの二点は、同じ明治三十九年（一九〇六）に宮内省へ納められたもので、手前の岩や山肌に緑青や群青といった明快な彩色を施す点が共通することや、構図が左右並べた時にゆるやかな呼応関係を見せていることから、対の意識で制作された春夏の山水図である可能性も考えられる。

玉章は京都に生まれ、円山四条派の中島来章に師事した。慶応二年（一八六六）に江戸に出てからは、一時期チャールズ・ワグマンに洋画を学び、円山派の写実的画風に洋画の技法を取り入れて革新を図った。明治二十一年から東京美術学校の教授となり、東京における円山派の牽引者となったことでも知られる。内外の博覧会等でも受賞を重ね、同二十九年に帝室技芸員に任命される。同四十二年には川端画学校を設立し後進を指導した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

皇室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 47

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年七月十九日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections